

文部省唱歌による「海のうた メドレー」

(ピアノ連弾と簡易2部合唱のために)

志 澤 彰

ピアノ連弾と簡単な2部合唱によるスケールの大きな演奏を想定して編曲しました。クラス合唱、学年合唱あるいは全校合唱、市民合唱祭等の合同合唱等々、人数は大勢いるけれど、あまり音楽的には深く練習する時間がとれない、あるいはあまり難しい曲は歌えない。しかし、人数に見合ったスケールの大きな合唱を歌いたいというような時に適するような編曲にしました。

曲目は、「うみ」、「海」、「われは海の子」の文部省唱歌3曲をメドレーで編曲しました。

うみ～海～われは海の子

編曲 志 澤 彰

Andante (♩ = 84)

The musical score is written for piano in 3/4 time, key of D major (indicated by two sharps). The tempo is Andante, with a quarter note equal to 84 beats per minute. The score is divided into two systems, each containing four measures. The first system includes dynamics markings of *f* (forte) and *mf* (mezzo-forte). The second system includes a finger number '5' in the first measure of the bass staff. The notation uses treble and bass clefs with a grand staff bracket. The melody is primarily in the treble staff, while the bass staff provides harmonic support with chords and single notes.

f
mp
 8

Musical score for measures 8-11. The score is in G major (one sharp) and 4/4 time. It features a piano accompaniment with a treble and bass staff. The treble staff has a melody starting on G4, moving up stepwise to A4, B4, and C5, with some rests and slurs. The bass staff has a steady eighth-note accompaniment. Dynamics include forte (f) and mezzo-piano (mp). Measure numbers 8, 9, 10, and 11 are indicated.

12

Musical score for measures 12-15. The score continues in G major and 4/4 time. The treble staff melody continues with a slur over measures 12-14, ending on a half note. The bass staff continues with eighth-note accompaniment. Measure numbers 12, 13, 14, and 15 are indicated.

16

17

20

21

poco rit.

poco rit.

〔うみ〕 文部省唱歌 林 柳 波 作詞
井 上 武 士 作曲

mf

1. う み は ひ ろ い な おお き い な
2. う み は お お な み あお い な み

24

f *mf*

つ き が の ほ る し ひ が し ず む
ゆ くれ が て ど こ ま で つ つ く や ら

28

mf

う み に お ふ ね を う か ば せ て

8^{va}

32

f

い っ て み た い な よ そ の く に

8^{va}

36

Moderato (♩ = 92)

mf

40 lu lu lu lu lu lu lu lu lu

〔 海 〕 文部省唱歌

mp

lu lu lu lu lu lu lu lu lu

mf

1. まつ は ら と お く き ゆ る と こ ろ

mp

44

しらほ の かーげ は うー か ぶ

48

ほしあ み はーま に たかく し て

52

mf

かもめはひーくくなみにとぶ

56

f

みよひるのうみ

60

み よ ひ る の う み

63

Più mosso (♩ = 104)

con brio

66 con brio

70

74

75 76 77 78

mf

mf

81 82 83 84

mf

f

f

legato

85

rit.

Tempo I (Moderato)

mf

2. し ま や ま や み に し ー る き あ た り

88

い さ り び ひ か り あ わ し

92

よ る な み き し に ゆ る く し て

96

mf

う ら か ぜ か - ろ く い さ ご ふ く

100

f

み よ よ る の う み み よ

104

allargando

よるのうみ

8va

mp *molto cresc.*

108

mp *molto cresc.*

〔われは海の子〕 文部省唱歌

Vigorosamente (♩ = 126)

112

116 1. われはうみのこしらなみの

mf

120

さーわぐいそべのまつばらに

mp

124

けむりたなびくとまやこそ

mf

わ が な つ か し き す み か な れ

128

mp

2. u u u u u u u

mf

2. う ま れ て し お に ゆ あ み し て

132

mf

な　　み　　を　　こ　　も　　り　　の　　う　　た　　と　　き　　き

136

mp

せ　　ん　　り　　よ　　せ　　く　　る　　う　　み　　の　　き　　を

140

8^{va}

mf *poco rit.*

す い て わ ら べ と な り に け り

poco rit.

8va *loco* *poco rit.*

144 *poco rit.*

Grandioso (♩ = 108) *mf*

u u

f

3. た か く は な つ く い そ の か に

8va

148

f

ふ だ ん の は ー な の か お り あ り

8va

152

mp *cresc.*

な ぎ さ の ま ー つ に ふ く か ぜ を

mp *cresc.*

8va

156

allargando

f

い み じ き が ー く と わ れ は き

8va

8va

160

8va

Meno mosso

ff

ff

8va

8va

163

8va

〔歌 詞〕

う

み
詞 林 柳 波

うみは ひろいな
お おきいな
つきが のぼるし
ひが しずむ
うみは おおなみ
あ おい なみ
ゆ れて どこまで
つ づく やら
うみに おふねを
う かば して
い っ て み たい な
よ そ の く に

海

文 部 省 唱 歌

松 原 遠 く 消 ゆ る 所
白 帆 の 影 は 浮 か ぶ
干 し 網 浜 に 高 く し て
鷗 は 低 く 波 に 飛 ぶ
見 よ 昼 の 海
見 よ 昼 の 海
島 山 間 に 印 き あ た り
漁 り 火 光 り 淡 し
寄 る 波 岸 に ゆ る く し て
浦 風 軽 ろ く 砂 吹 く
見 よ 夜 の 海
見 よ 夜 の 海

われは海の子

文 部 省 唱 歌

われは海の子白浪の
さわぐ磯辺の松原に
煙たなびく苦屋こそ
わがなつかしき住家なれ
生れて潮にゆあみして
浪を子守の歌と聞き
千里よせくる海の気を
吸いて童となりけり
高く鼻つく磯の香に
不断の花のかおりあり
なぎさの松に吹く風を
いみじき楽とわれは聞く

[解 説]

前書にも記しましたように、人数は多く大合唱になる、しかし十分な練習時間がとれなかったり、あまり合唱経験がない等、難しい曲はできないが、ピアノの連弾を伴う事により、スケールの大きな「ピアノと合唱」の演奏を味わう事ができるよう編曲しました。

合唱は簡単な2部合唱（部分的に3部を含む）に編曲してありますが、和声の使い方はシンプルにしてありますので、このピアノ連弾と合う編曲であれば他の合唱編曲との演奏も可能と思います。

また、教育現場などでは、一人でも多くの生徒や学生にピアノを演奏するチャンスを与えるべくピアニストが途中で交代できるよう編曲いたしました。

ピアノ連弾の譜面にはあまり強弱記号を付してありません。とくに必要な所には付してありますが、その他は合唱とのバランスをよく聞きながら演奏していただければ良いと思います。

ピアノ連弾の4手がどのような役割を担当しているのか、旋律を担当しているのか、対旋律なのか、全体を支えるバスパートなのか、あるいはオブリガートなのか等をよく考えて演奏して下さい。

ピアノⅡは、同声合唱にはない音域を弾く事が多いパートです。合唱とピアノⅠをしっかり支えるべく常に深く響いた音が出せるよう努力して下さい。

そして、もっとも大事なことは「海のうた」のどのような情景をピアノが表しているかを表現することです。

[う み]

1小節 このメドレー全体を支えるべく充分に響いた音を、そして美しい海が広々と広がっているような情景を想像できるような音を出しましょう。

10 “ パートが交差（ピアノⅠとⅡが、あるいは右手と左手が）している所がいくつもありますが、ここでは旋律を生かすため（ ）は弾かない指使いが良いと思います。

12 “ すぐにお気付きの事と思いますが、ここから「うみ」の旋律を弾いていたピアノⅠが「海」の旋律に変わってしまいます。そして20小節より再び「うみ」に戻り、「うみ」の合唱へとつながります。曲の変わり目は自然に聞こえるように弾きましょう。

32 “ ピانوⅠのオクターブの旋律は、合唱の流れを感じてレガートに弾いて下さい。ピアノⅡは、寄せては返す波を表現しましょう。

39 “ の終わったダブルバーでピアニストの交代が可能かと思います。ⅠからⅡへ、またはⅡが交代をする、あるいは44小節よりⅠのみ交代することもできると思います。

40小節 からは、小学生など手の小さな子が弾く場合はソロではなく、無理をせずへ音記号の方を両手で弾いてよいでしょう。ここからは次の「海」を意識したテンポに少しテンポアップしましょう。合唱の 1 u l u l u のパートは、波が引いて消えていくように「うみ」から「海」へ引き継いで下さい。

[海]

44小節 ピアノⅠの右手は「うみ」、左手は「海」です。左右のバランスに気を付けて弾きましょう。

48 “ 歌詞の意味を生かしたオブリガートになるよう心がけましょう。

52 “ 旋律に対し、その裏拍にある8分音符が出すぎないようにバランスに注意して弾きましょう。

60 “ 合唱を支える豊かなハーモニーになるよう響きに注意して弾きましょう。

66 “ ここからはさらに少しテンポを上げ、生き生きと弾んだリズムで弾きましょう。ⅡのシンコペーションのリズムとⅠの付点8分音符のリズムのタイミングが合うようゆっくりしたテンポから練習しましょう。

82 “ ここからは一転してゆったりとした流れにしましょう。とくに、Ⅰの右手とⅡの左手はゆったりと弾いてください。内声（Ⅰの左手とⅡの右手）同士がよく聞き合い揃えて弾きましょう。

88 “ ここでもピアニストの交代が可能です。ⅡがⅠへパート移動あるいはⅠのみ奏者が交代することも可能です。ここで奏者が交代しないときは、その前の86小節では、*poco rit.* で良いでしょう。この *Tempo I* は、「海」の冒頭のテンポです。

95 “ Ⅱの左手十六分音符の *cresc.* は次につながるようタツプリと弾いてください。

96 “ Ⅱの十六分音符は海の底のうねりのように、それが左から右へまた左へと受け渡しをなめらかに弾けるように注意しましょう。

104 “ この部分も内声がそろよう注意して弾きましょう。

109 “ 後のダブルバーでフェルマータし、ピアニストの交代も可能です。

110 “ ここからの2小節は、112小節からの *Vigorosamente* につなぐため、力強く、堂々とした *allargando* で *molto cresce.*、>、≥もたっぷり演奏しましょう。

[われは海の子]

112 小節 Ⅰ・Ⅱのどちらを担当していた人でも弾けます。Ⅰが弾いて132小節よりⅡへ移ることも可能です。

116 “ からは合唱を支える厚いハーモニーになるよう、指先を鍵盤深く弾きましょ

- 132 “ 合唱Ⅰの人数１に対し、合唱Ⅱの人数は２～３位のバランスが良いでしょう。ピアノⅠの左手は、遠くに見える波頭が逆光でキラキラ輝いているような音色になると良いでしょう。
- 136 小節ここからの合唱Ⅰ・Ⅱの人数はほぼ同数で良いでしょう。その結果132小節からずっと旋律を歌う人ができます。また、このような人数バランスにすることにより旋律しか歌えない人も一緒に合唱ができるのは良い事と思います。
- 140 “ 合唱は２小節間ユニゾンで *cresc.* です。142小節からの合唱の響きがやせないようよく響いた声を出せるようにしましょう。
 ピアノⅠは砕け落ちる波頭を表しているように弾いて下さい。
 ピアノⅡの左手４分音符は全体をしっかり支えられるよう、とくに深く響かせてひいて下さい。
- 145 “ ピアノⅠの３拍目 *Es* からは *loco* です。注意して下さい。
- 148 “ 合唱Ⅰの人数は132小節と同様です。とくにⅠの上のパートは柔らかない頭声で少人数が良いでしょう。
 ここからは、少し重く *Grandioso* で演奏します。147小節の *poco rit.* はこの *Grandioso* を導きだす *rit.* になるように演奏して下さい。
 ３連音符は力強く、はてしなく、そし絶え間なくうねる波を表現して下さい。
- 154 “ ピアノⅠの左手からピアノⅡの右手への旋律の受け渡しがなめらかで自然であるよう、よく合わせて下さい。
- 156 “ 付点４分音符の次の８分音符がピアノにつられて短くならないよう注意しましょう。
 ピアノⅠには、旋律（４分音符や８分音符に）がちりばめてあります。その旋律を大切に響かせ演奏しましょう。
 ピアノⅡの左手は豊かに歌い上げて下さい。
- 158 “ 142小節と同様合唱の響きがやせないよう注意しましょう。
- 162 “ *allargando* は *cresc.* も *rit.* もかなりたっぷりと演奏しましょう。
 合唱Ⅰの上のパートの人数は少人数でかまいません。旋律の人数を減らず、合唱Ⅱのほうから歌える人を出せるとより良いと思います。
 最後は、180°以上の視界で水平線のかなたまで堂々と広がった海、そのような雄大な海が目に見えるような終わり方ができると良いと思います。

（本学講師・初等教育）